

「アンケート意見・質問等シート」の集計結果

1 調査の概要

- (1) 調査対象 西東京市立中原小学校及び西東京市立ひばりが丘中学校建替準備検討協議会委員 19 人
- (2) 調査目的 建替えに関する委員の意見や考え方等の把握
- (3) 実施期間 平成 24 年 5 月 25 日から平成 24 年 6 月 15 日まで
- (4) 調査方法 第 1 回会議時配布、後日郵送又は学校交換便による回答提出
- (5) 回答者数 15 人（回収率 79%）

2 調査集計結果

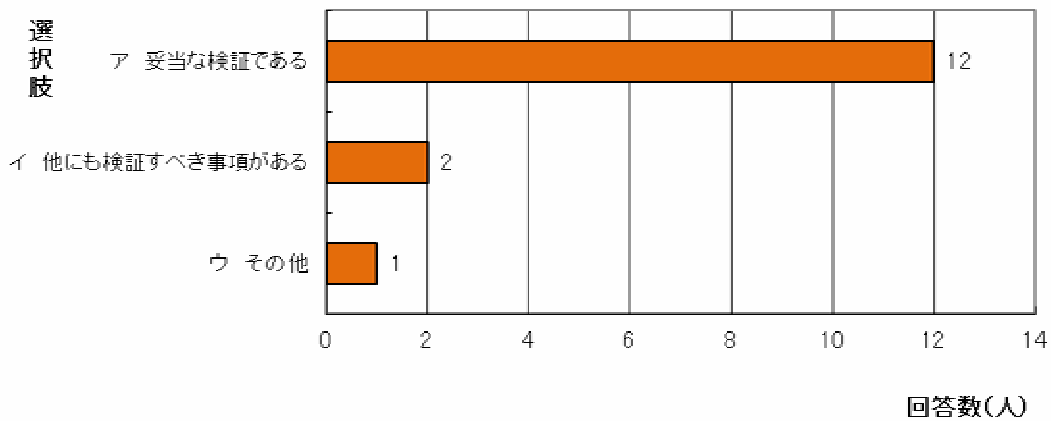
【Q1 . 建替パターンの検証について】(資料 p6 ~ p8 参照)

学校施設適正規模・適正配置庁内検討委員会（以下「庁内検討委員会」という。）では、平成 22 年度及び平成 23 年度において、中原小学校とひばりが丘中学校の建替えについて、大きく 4 つのパターンを想定してメリット・デメリット等の検証を行いました。

次の選択肢の中で、ご自身のお考えに最も近いものを選択し、記号を で囲んでください。また、その理由をご記入ください。

ア 妥当な検証である イ 他にも検証すべき事項がある ウ その他

集計結果



選 択 肢	人数	回答に占める割合
ア 妥当な検証である	12 人	(80.0%)
イ 他にも検証すべき事項がある	2 人	(13.3%)
ウ その他	1 人	(6.7%)

< 主な理由>

ア 妥当な検証である

現実的である。

よく考えられている。

多角的に検証している。

「中原小学校」は現在地で建て替える方が良い。（「中原小学校」をUR用地に移転する(パターン2)と、(ひばりヶ丘)駅周辺の児童の通学距離が遠くなってしまう。）

「ひばりが丘中学校」がUR用地に移転することについては、現在のひばりが丘中学校区の住民感情への配慮が必要である。

建替時に校舎・校庭・体育館・プール等が使用でき、教育活動に支障をきたさないことが第一である。

4つのパターンのうち、パターン3が良いと思う。

UR用地購入の為に多額な費用がかかるが、致し方ない。

イ 他にも検証すべき事項がある

「中原小学校」の児童数に対して、敷地面積や運動場面積が狭い。

施設一体型の小中一貫校としては市全体では例がないため課題がある。(パターン4)

パターン1の方が費用はかかるが、両校とも現在地に学校が残るため良い。

ウ その他

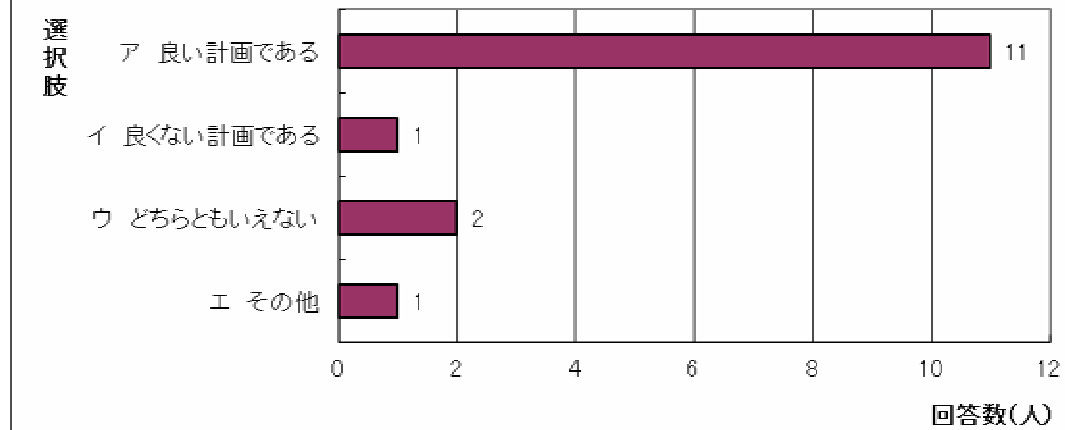
4つのパターンの中では、適当と思えるパターンが無い。

【Q2 . 建替プランについて】(資料 p9 ~ p11 参照)

庁内検討委員会として平成 23 年度に取りまとめた建替プランについて、次の選択肢の中で、ご自身のお考えに最も近いものを選択し、記号を で囲んでください。また、その理由をご記入ください。

ア 良い計画である イ 良くない計画である ウ どちらともいえない エ その他

集計結果



選択肢	人数	回答に占める割合
ア 良い計画である	11人	(73.3%)
イ 良くない計画である	1人	(6.7%)
ウ どちらともいえない	2人	(13.3%)
エ その他	1人	(6.7%)

< 主な理由>

ア 良い計画である

経済性も考慮されている。

通学区域の問題解消の為にも良い考えである。

適正配置の観点から中原小学校区に中学校ができることは望ましい。

仮設校舎を建てる必要がないので、財政的な面からも望ましい。

最終報告書の建替プランは、児童・生徒への負担が最小限となり、教育環境が保持されるプランである。

(感想・意見等)

他のパターンは難しいと感じた。

財源のことも含めて、(現在の「ひばりが丘中学校」の)跡地をどうするのかを同時に検討すべき。

近隣住民との話し合いは充分に行ったほうが良い。

UR用地に「(仮称)第10中学校」ができると、「田無第三中学校」との距離が近くなり、住吉町地域の子どもたちにとっては、「田無第二中学校」も「(仮称)第10中学校」

もかなり遠くなる。

早急に事業を推進するべきである。(建築60年目に合わせる必要があるのか。)

イ 良くない計画である

長すぎる。(検討準備委員会(建替準備検討協議会)は2年もやる必要はない。)

問題点の洗い出しは1年で充分。

検討委員会(建替協議会)をむしろ2年にすべき。

UR用地を他を買われて振り出しに戻らないようにして欲しい。

ウ どちらともいえない

「ウ」に印をつけているが、「イ」よりは「ア」に近い。

広報紙等で公表された時点で、本プランに決定だと思ったので「ウ」とした。(これが一番良いプランだろうと思う。)

エ その他

広報紙等で公表された時点で、本プランに決定だと思っていた。(市民の大半はそう思っているのではないか。)

10年後の人口推移、資金面から考えると納得できるが、人口に関してはあくまでも推移であり、住吉・泉地区の人口が増えたらどうなるのか。

【Q3 . その他】

建替えを進めるに当たって、課題として捉えていることや不安に思われていることがありましたら、ご記入ください。

～ 学校施設に関すること～

プランにあるように、地域への説明と、中学校の校舎を小学生が利用する際の配慮が細かくなされるべき。(小学校1年生と6年生でも体格に大きな差があり、ましてや中学校の校舎を使うとなればどれだけ配慮してもらえるのか、小さな子を持つ方々は不安と思う。)

「中原小学校」の学級数(6学年と特別支援学級の合計学級数)と「ひばりが丘中学校」の学級数(3学年)にかなりの差がある。「ひばりが丘中学校」が移転した際、学級がかなり余るので、その活用方法を考えた建築をすべきと思う。

建替えが完了する10年後までに大地震で壊れてしまわないか。(「中原小学校」は自分の住む家の一番近い広域避難場所なので、避難の拠点が危険だと不安である。)

「中原小学校」の児童が仮校舎として「(仮称)第10中学校」の校舎を使うことが課題である。

「中原小学校」の現在の児童数をみて、10年後まで建替えを待つのは耐え難い。

～ 通学区域に関すること～

「ひばりが丘中学校」と「田無第二中学校」の通学区域のスムーズな移行が課題である。

「ひばりが丘中学校」と「田無第二中学校」の通学区域をどのように考えるかなどが課題である。

建替中の通学区域の区分はどうなるのか。

建替え後の通学区域の検討が課題である。

保護者の立場としては、中学校移転後の通学区域見直しが、どのようになるのか一番気になる。家庭によっては、兄弟で同じ「ひばりが丘中学校」に(遠くなくても)通いたい、という場合もある。

～ 周知に関すること～

保護者や地域の方に適時正確な情報公開を行うべきである。

できるだけ早期に住民説明が持たれるべきと思う。

市民に対しての周知を理解できる様に簡単にしたい。

未就園児の親からも「中原小学校」の建替えについて質問されることがあるので、関心が高い問題である。

～ 街づくりに関すること～

(「ひばりが丘中学校」の跡地がどうなるのかが問題である。(敷地面積が)広いだけに地域が大きく変わる心配もある。)

街づくりを学校だけでなく、どういう人で構成し、どういう街にするかを全体で考えていくべきではないか。

「ひばりが丘中学校」の跡地利用についてどのような案があるのか。

～ 児童・生徒数に関すること～

建替完了後 10 年・20 年先の学区や生徒数に大きな変化がないかが気になる。

子どもの人数の今後の変化が課題である。

～ 現状の課題に関すること～

9 年後の建替え以前に、建替えまでの 9 年間でどう過ごすかの方が今の課題である。

～ 財政面に関すること～

費用面が課題である。

～ 全体・その他～

課題の中でも建替えの前提条件となる部分を優先して課題整理する必要がある。

市報が発行された時点でこの計画は決まったものと受け取られた方が大多数と思う。

建替えの完了まで時間がかかりすぎる。

「ひばりが丘中学校」が現在の場所からなくなるということは、卒業生にとってはとても寂しい事である。何か少しでも思い出を残す事はできないか。

「ひばりが丘中学校」と「田無第二中学校」が近接している現状で、所在地変更によりこの問題が解消されようとするのは良い事である。

建替えについては、今後の話し合いでわかってくると思う。

【Q4 .その他】

その他、建替えに関して、質問・意見等がありましたら、ご記入ください。

～学校施設に関すること～

「(仮称)第10中学校」は、中学生向けの造りなので、「中原小学校」の児童が使用する際、不便さや危険のない配慮が必要である。

「ひばりが丘中学校」が移転した際、余るであろう空き教室を地域に開放出来るような造りにしてはどうか。

中学校の教育活動に支障をきたさず、例えば、学校と切り離せるよう、夜間仕切って施設開放する。あるいは最初から棟を2つにして建築し、1棟を施設開放するなど。様々な団体が施設を利用したがつているにも関わらず場所の確保が難しいと聞く。そのような団体が使えるようにしてあげたい。「けやき小学校」以外にも地域開放型の学校は都内にあると思うので、資料を集め検討したい。

建替えまでの間の「中原小学校」の教室不足が、何年間続くのか心配である。

中学校給食は親子校方式を採用するのか。「(仮称)第10中学校」で単独給食の導入なのか。(「住吉小学校」「ひばりが丘中学校」の親子給食方式は、「住吉小学校」のみになるのか。)

～街づくりに関すること～

跡地がどうなるのか心配。

UR用地を取得し、「(仮称)第10中学校」を建てた時の「ひばりが丘中学校」の跡地はどうするのか。

中学校が移転し、小学校も廃校になった場合に、密な地域コミュニティがどうなっていくのか少々不安である。

購入予定のUR用地、その周りの他に売れる部分がどこに売られるかが気になる。学校周辺の環境整備はどうなっていくのか気になる。

～児童・生徒数に関すること～

平成26年度まで案を出し検証していくとの事ですが、もう少し時期尚早にならないものか。教室がどんどん無くなっていく「中原小学校」の未来ある子どもたちはかわいそうである。

～財政面に関すること～

学校の建替えは、多額な費用が掛かるので、児童・生徒の教育環境のことを第一に捉えつつ、将来を見据えた費用対効果も考えながら、検討する必要がある。

～全体・その他～

学校を数字や東西南北であらわすのではなく名前をつけた方が良い。

「ひばりが丘中学校」の卒業生、保護者、そして地域住民にとって時代の流れで移転は仕方のないこととしても母校が名前だけは変わらずにあって欲しい。

今の段階では、現状を理解するのが最優先で、何が問題であるのか、まだわからない。建替えではありませんが、小規模校の統廃合のことが気になる。(「住吉小学校」・「泉小学校」等そのまま存続ということはないのか。)

UR用地が購入できるかが不安である。

この会議そのものが無駄のように思われる。2年後の建替協議会のための準備検討協議会とは、本当に必要なのだろうか。市報に掲載された時から「プラン」は決定事項だと思っていた。今さら市民から「プランには反対だ」と大きな動きがあれば変えられるのか。本音を言えば、UR用地に小中一体型の学校を作り、現ひばりが丘中学校敷地に、小中一体型の学校を建替えて欲しい。「ひばりが丘中学校」建替中は、中学生は統廃合後の「住吉小学校」又は「泉小学校」へ通学。結果、中学校は一つ増えてしまうが、こまやかな生徒指導、教育が出来るのではないか。